エコアクション21
認証・登録番号 0005653

2023年度　環 境 経 営 レ ポ ー ト

富士スバル　株式会社

FUJISUBARU

発行日：2024年8月1日

【1】会社概要

（1） 事業者名

富士スバル　株式会社

（2） 所在地　　〒371-0023

群馬県前橋市本町2-11-2

（3） 代表者氏名

代表取締役会長 兼 CEO　　斎藤　郁雄
代表取締役社長 兼 COO　　宮田　亘

（4） 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者	管理本部長	久保寺　禎
事務局長	総務部長	藤澤　祐介
担当者	総務部スタッフ、監査部スタッフ、サービス・部品部スタッフ	
連絡先	電話　027-221-8111　　FAX　027-223-2307	
URL	https://www.fujisubaru.co.jp	

（5） 事業の規模

項　　目	2021年度	2022年度	2023年度
・売上高　単位：百万円	17,432	20,971	22,051
・新車販売台数　単位：台	4,476	5,296	5,181
・中古車小売販売台数　単位：台	992	980	1,082
・整備入庫台数　単位：台	203,812	198,158	171,951
・従業員数（3月末の役員・派遣社員除く人数）　単位：人	437	450	445

・店舗数　　新車店舗16、中古車店舗4、泉沢事業場、本社

※中古車店舗のG-PARK伊勢崎は、新車店舗と併設している為、

サイト数としては、21となる。

【2】対象範囲

（1） 認証・登録範囲

認証・登録番号　0005653

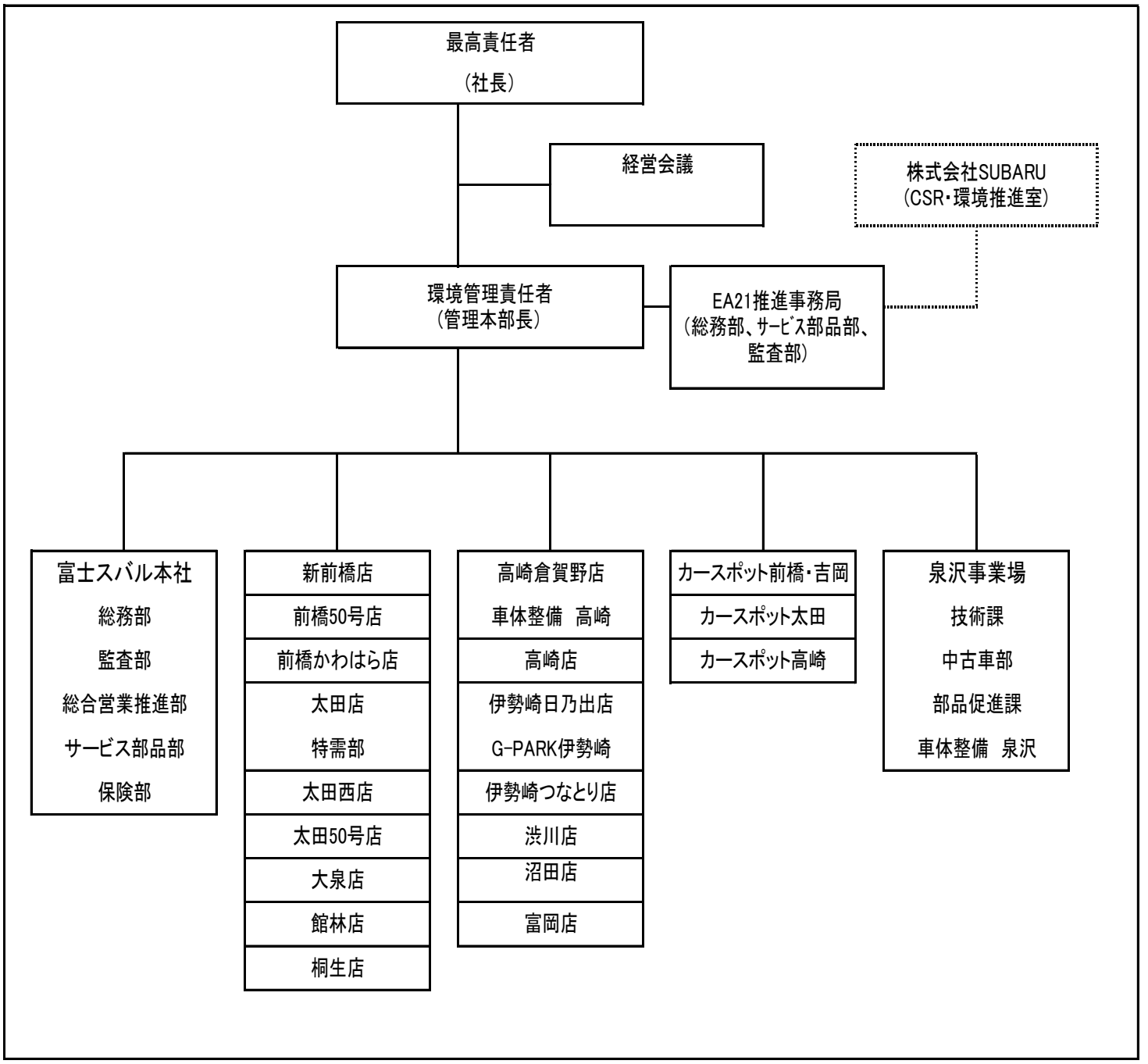
自動車の販売及び整備、保険代理店業務
富士スバル株式会社　全組織・全活動

エコアクション21
認証・登録番号0005653

(2)レポートの対象期間

このレポートの対象期間は2023年4月より2024年3月末としています。

（3） EA21推進組織図



（4） 事業所一覧・組織区分

	事業所名	郵便番号	住所	電話番号	FAX番号	面積（m2）		工場	組織区分
						土地	建物	資格	
1	富士スバル本社 総務部 監査部 総合営業推進部 中古車部 サービス部 保険部	371-0023	群馬県前橋市本町2丁目11-2 （3F）	027-221-8111	027-223-2307		615.5	－	A
2	新前橋店	371-0844	群馬県前橋市古市町218	027-251-3311	027-251-3314	4438.4	1412.0	認証	C
3	前橋50号店	379-2154	群馬県前橋市天川大島町1丁目5-22	027-224-5184	027-224-5424	3312.0	1012.5	認証	C
4	前橋かわはら店	371-0046	群馬県前橋市川原町西原776-1	027-233-1151	027-233-1186	3688.0	1393.7	認証	C
5	太田店	373-0817	群馬県太田市飯塚町1620-1	0276-45-3986	0276-46-4760	8757.2	4028.3	認証	C
	特需部			0276-47-0001	0276-47-0010			－	B
6	太田西店	373-0847	群馬県太田市西新町44-4	0276-31-7001	0276-31-5074	3441.3	1045.0	認証	C
7	太田50号店	373-0015	群馬県太田市東新町368-2	0276-37-3222	0276-37-3225	7923.0	1005.0	認証	C
8	大泉店	370-0517	群馬県邑楽郡大泉町西小泉5-2-16	0276-62-4521	0276-62-4524	3243.5	824.0	認証	C
9	館林店	374-0016	群馬県館林市松原3丁目14-8	0276-75-1441	0276-75-1451	2608.0	729.0	認証	C
10	桐生店	376-0013	群馬県桐生市広沢町1丁目2512	0277-52-0175	0277-52-0223	5920.5	1650.3	認証	C
11	高崎倉賀野店	370-1201	群馬県高崎市倉賀野町418	027-346-1361	027-346-1364	4743.8	1343.2	認証	C
	車体整備　高崎			027-347-5015	027-347-1056		579.7	－	D
12	高崎店	370-0073	群馬県高崎市緑町4丁目5-3	027-361-2301	027-361-2304	4677.4	3110.6	認証	C
13	ｶｰｽﾎﾟｯﾄ高崎	370-0073	群馬県高崎市緑町4丁目5-7	027-363-1300	027-363-4724	1634.7	670.0	－	B
14	伊勢崎日乃出店	372-0022	群馬県伊勢崎市日乃出町481-1	0270-24-3422	0270-24-3425	9544.0	888.5	認証	C
	G-PARK伊勢崎			0270-40-6363	0270-40-6177	180.0	180.0	－	B
15	伊勢崎つなとり店	372-0817	群馬県伊勢崎市連取本町9-2	0270-26-5445	0270-26-5448	3020.0	961.3	認証	C
16	渋川店	377-0004	群馬県渋川市半田3176	0279-22-3251	0279-22-3347	4814.0	637.5	認証	C
17	沼田店	378-0031	群馬県沼田市薄根町3689-4	0278-24-1133	0278-22-3898	3270.1	740.0	認証	C
18	富岡店	370-2315	群馬県富岡市曾木105	0274-62-3535	0274-63-6768	2676.0	821.0	認証	C
19	ｶｰｽﾎﾟｯﾄ前橋・吉岡	370-3602	群馬県北群馬郡吉岡町大久保1361-2	0279-55-6978	0279-55-6979	2675.5	153.2	－	B
20	ｶｰｽﾎﾟｯﾄ太田	373-0852	群馬県太田市新井町532-3	0276-45-3933	0276-47-0058	2942.0	81.8	－	B
21	泉沢事業場	379-2101	群馬県前橋市泉沢町1156			9434.0	938.0	－	A
	技術課			027-268-2333	027-280-7170				
	中古車部			027-230-3910	027-280-7170				A
	部品管理課			027-268-0403	027-268-3327		1485.9	－	A
	車体整備　泉沢			027-268-0418	027-230-3049		561.4	－	D

工場の資格で、指定は指定整備工場、認証は認証工場を示す

組織区分の意味　　A＝オフィス業務（事務所業務）

B＝オフィス業務＋自動車販売(新車、中古車）

C＝オフィス業務＋自動車販売（新車、中古車）＋整備業務

D＝オフィス業務＋整備業務＋鈑金塗装

【3】環境経営方針

環境経営方針

基本理念

富士スバル株式会社は、豊かな自然環境に恵まれた群馬県に生きる企業として、「地域社会に、豊かさと潤いを創造する」という企業理念の基、事業活動と環境保全の調和を目指し、良き企業市民として、わたしたちにふさわしい社会貢献活動と環境保全活動を積極的に推進します。

基本方針

この基本理念を基に、お客様に心から満足いただける商品・サービスの提供、人づくり、店づくりを通じて、豊かで潤いのあるくらしと環境保全の両立を目指し、持続可能な社会づくりに寄与します。

1. 環境汚染の予防に取組むとともに、環境負荷を少なくしながら、より大きな価値を生み出せるような仕事の仕組みをつくり、環境効率を向上させます。
   またこの活動は定期的に見直しを行い、継続的改善を進めます。
   - ① 環境に配慮した商品・サービスの提供に取り組みます。
   - ② 省エネルギー・省資源を推進します。
   - ③ リデュース・リユース・リサイクルを推進し、廃棄物を削減します。
     また排出するものについては、適正処理を行います。
   - ④ 地球温暖化防止のために、CO2 の排出量を削減します。
   - ⑤ 水の効率的利用を促進し、適正な排水を行います。
   - ⑥ 有害性の恐れのある化学物質の削減と適正管理を行います。

2. 関連する法規制・地域協定・業界規範を遵守するとともに、目的・目標を定めて自主的な活動に取り組みます。

3. この方針は当社のために働くすべての人に周知するとともに、社員の職階・職種に応じた教育を行い、ひとりひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。

4. Thanks to you の経営理念のもと、事業活動・環境保全活動を通じて地域の模範となり、人々に豊かな生活を提供します。

5. この方針は広く公開します。

2010 年 1 月 制定
2023 年 4 月 改定

富士スバル株式会社
代表取締役社長 兼 COO
宮田亘

【4】環境経営目標

当社は「環境への負荷の自己チェック」及び「環境への取組の自己チェック」を行い、環境負荷の大きい項目について、その数量の把握をし、増加しないよう維持に取組む。

（1）　環境負荷の状況　*全社合計

項目		単位	2023年度
電気使用量		kWh	2,682,834.0
燃料	ガソリン	L	248,613.5
	軽油	L	15,606.8
	灯油	L	2,504.2
	LPG	m3	8,069.0
	都市ガス	m3	40,788.0
二酸化炭素排出量		kg-CO2	※1 1,016,377.5
水使用量		m3	16,622.3
産業廃棄物		t	※2 153.8
一般廃棄物		t	61.3
廃棄物合計		t	215.1
コピー用紙使用量		kg	9,851.4
先進安全自動車(ASV)販売比率		%	5,055台／5,181台 97.5

※年度とは、4月1日～3月31日までの1年間のことをいう。

例）2020年度・・・2020年4月1日～2021年3月31日

※1　電力の排出係数について、電力供給会社を「サミットエナジー社」へ変更を行ったため(新車店舗の8割)、CO2の排出が実質ゼロとなった。

※2 廃油とおよび廃バッテリーは有価にて処理をしている為、焼却処理とは見なさないと考え、産業廃棄物排出量及び二酸化炭素排出量の算定・削減目標に含めない。

（2）　環境経営目標　*全社合計

項目		単位	2023年度	2024年度	2025年度
電気使用量		kWh	2,335,234	（前年比-1%）2,311,882	（前年比-1%）2,288,763
燃料	ガソリン	L	358,355	（前年比-3%）347,604	（前年比-3%）337,176
	軽油	L	23,467	（前年比-3%）22,763	（前年比-3%）22,080
	灯油	L	8,615	（前年比-3%）8,357	（前年比-3%）8,106
	LPG	m3	10,238	（前年比-3%）9,931	（前年比-3%）9,633
	都市ガス	m3	42,556	（前年比-3%）41,279	（前年比-3%）40,041
二酸化炭素排出量		kg-CO2	1,107,741	（前年比-3%）1,074,509	（前年比-3%）1,042,274
水使用量		m3	19,015	（前年比-2%）18,634	（前年比-2%）18,262
産業廃棄物		t	163.3	（前年比-2%）160.0	（前年比-2%）156.8
一般廃棄物		t	58.8	（前年比-2%）57.6	（前年比-2%）56.5
廃棄物合計		t	209.4	（前年比-2%）205.2	（前年比-2%）201.1
コピー用紙使用量		kg	11,836	（前年比-2%）11,599	（前年比-2%）11,367
先進安全自動車(ASV)販売比率（増加率）		%	96.1 2%	100.0	100.0

【5】主要な環境活動計画の内容

（1）数値目標を達成するための取組

① 電気使用量削減
- ・昼食時等の工場照明を消灯する。（使用していない部屋の電気は消灯する）
- ・冷暖房の室温管理（設定温度は室温が冷房時28℃暖房時20℃を目標に管理）
- ・省エネ工事の推進（高効率空調への切替、LED照明への切替、断熱強化　等）

② 燃料使用量削減（ガソリン・軽油）
- ・社用車は運転する際はエコモードを積極的に活用する。
- ・エコ運転の推進（エコドライブ5ヶ条の励行）。
- ・社用車を運転をする際は、事前にルートを確認し効率良く移動するように心掛ける。
- ・集合する必要が無い場合は、オンライン会議を活用する。

③ 水道水の使用量削減
- ・節水の掲示を行い利用者に周知を行う。
- ・定期的に量水器のチェックを行い、漏水が発生していないか確認する。

④ 一般廃棄物の排出量把握
- ・全拠点にて一般廃棄物排出量を把握する。
- ・分別を徹底する。

⑤ 紙（コピー用紙）の使用削減
- ・コピー削減および裏紙再使用。
- ・印刷する場合は集約機能を使用。
- ・保険部門では「ペーパーレス手続き」の推進を行う。
- ・お客様への各種案内を、スマートフォンやPCで利用できる「マイスバル」を活用し、印刷物を削減する。

⑥ 先進安全自動車(ASV)の販売比率増加
- ・追突事故を減らすことで、廃バンパーや廃金属の削減に繋げる。

⑦ 全拠点オンラインの集計システムを導入し、エネルギー使用量や廃棄物排出量の報告を徹底する事で、全社の使用エネルギーや廃棄物排出量を正しく把握することが出来る様になった。

【6】環境活動の実績

（1）数値実績

※達成：○　未達成：×

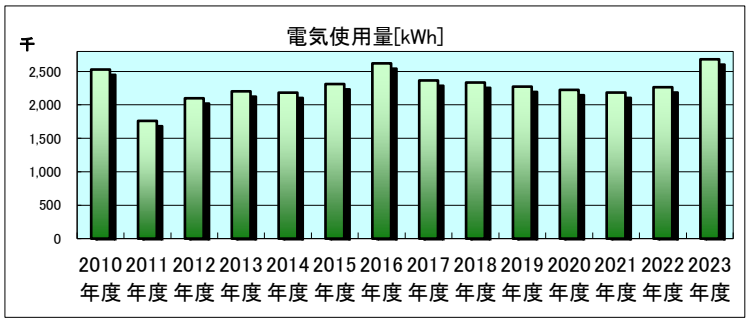
項目		単位	2021年度	2022年度	2023年度				評価
			実績	実績	削減目標	年間目標	実績	削減率	
電気使用量		kWh	2,185,179	2,265,193	－	2,335,234	2,682,834	−14.9%	×
燃料	ガソリン	L	227,344	222,553	－	358,355	248,613	30.6%	○
	軽油	L	14,298	16,744	－	23,467	15,607	33.5%	○
	灯油	L	4,107	3,065	－	8,615	2,504	70.9%	○
	LPG	m3	6,931	8,250	－	10,238	8,069	21.2%	○
	都市ガス	m3	38,209	35,219	－	42,556	40,788	4.2%	○
二酸化炭素排出量 ※		kg−CO2	1,551,951	1,110,094	－	1,107,741	1,016,377	8.2%	○
水使用量		m3	16,362	17,158	－	19,015	16,622	12.6%	○
産業廃棄物		t	183.3	166.0	－	163	153.8	－	―
一般廃棄物		t	61.3	67.0	－	58.8	61.3	−4.3%	×
廃棄物合計		t	244.6	233.0	－	209.4	215.1	－	―
コピー用紙使用量		kg	10,204	10,714	－	11,836	9,851	16.8%	○
先進安全自動車(ASV)販売比率		%	94.7	96.6	－	91.2	97.5	6.3%	○

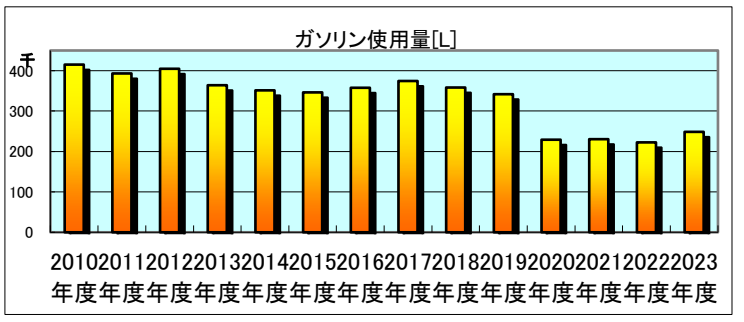
※二酸化炭素換算にあたり電力の算定係数は、（株式会社エナリス　0.4（kg−CO2/kWh））、（東京電力　0.376（kg−CO2/kWh））、（テスエンジニアリング　0.271（kg−CO2/kWh））を使用し、サミットエナジーと契約した店舗については、CO2の排出がゼロとなった。（サミットエナジー株式会社の子会社であるサミット酒田パワー株式会社が運営する、酒田バイオマス発電所に由来するトラッキング付き非化石証書を用いたCO2排出係数がゼロ［k9－CO2／kwh］の電力供給）

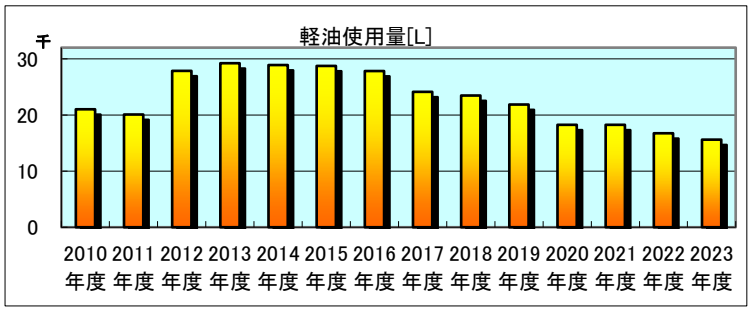
※「二酸化炭素排出量」は、一部が電気購入先の契約によって排出量ゼロとなり、今後は全体の電力をRE100にすることが目標となっている事と、全体のCO2排出量に占める電力使用量の割合が約50%(過去実績)となっている為、目標値を2018年度実績値の2分の1にする事とした。

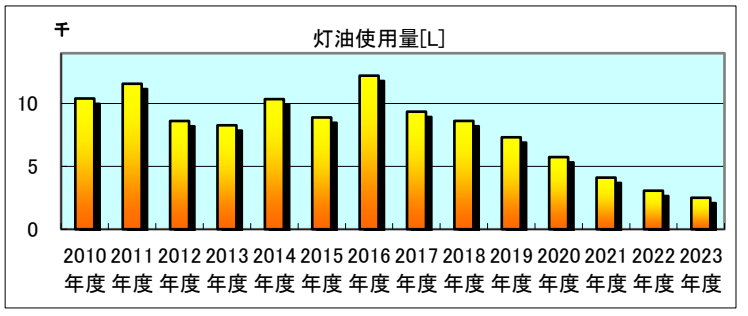
※「一般廃棄物」は、2018年度の実績を元に算出していたが、実績の数値がかけ離れていた為、近年の年間リコール発生件数を参考にし、新たに目標値を設定し直した。（リコールに伴う部品の梱包材が増加する為）

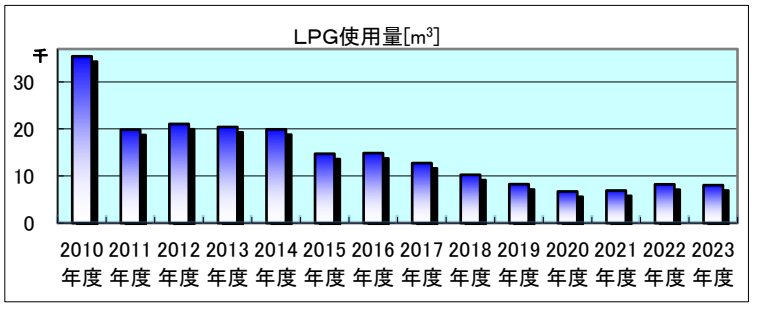
（2）各実績の年度別推移

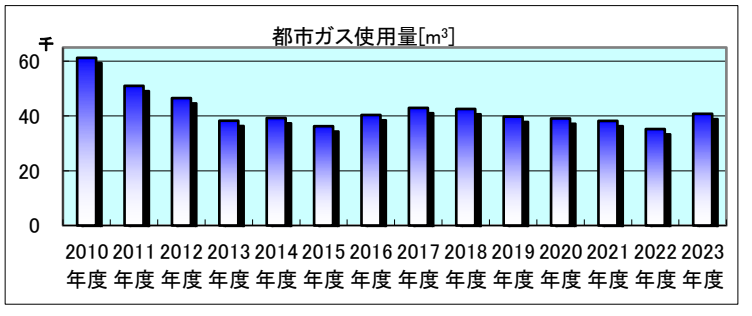

電気使用量[kWh]
千
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023
年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度

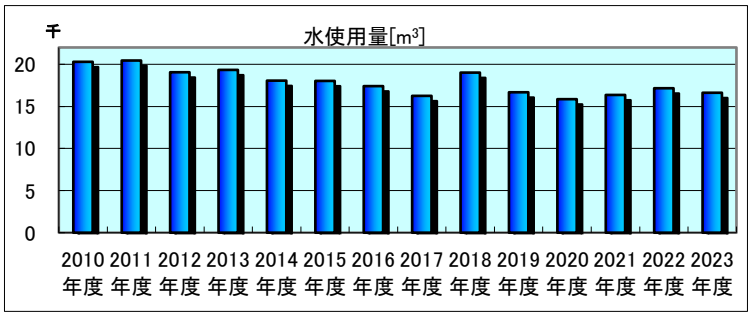

ガソリン使用量[L]
千
400
300
200
100
0
2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023
年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度

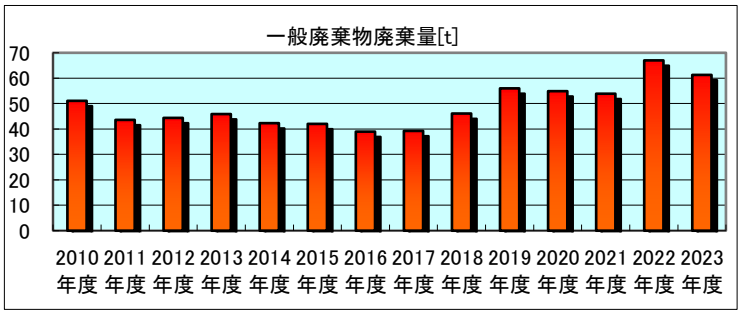

軽油使用量[L]
千
30
20
10
0
2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023
年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度

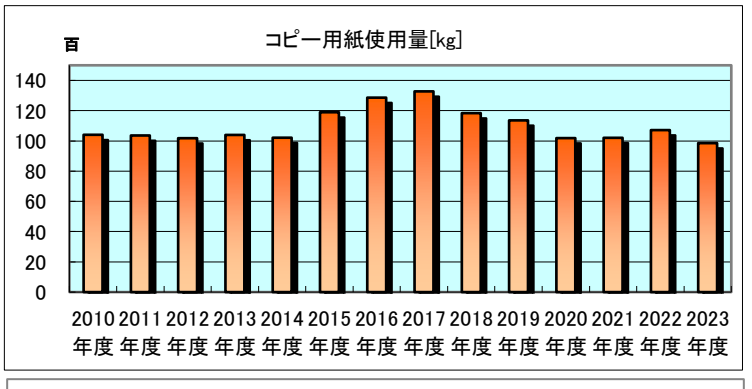

灯油使用量[L]
千
10
5
0
2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023
年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度

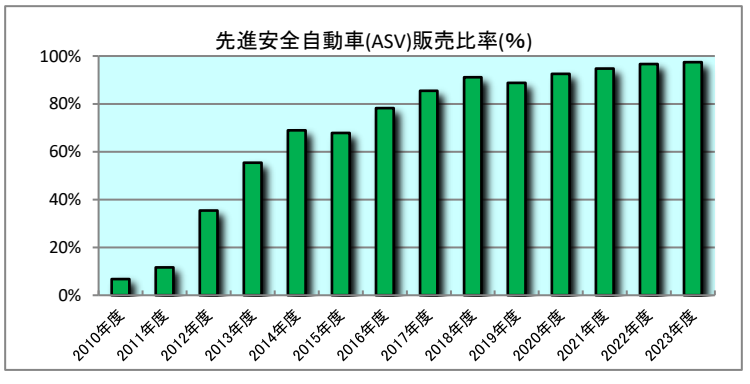

LPG使用量[m³]
千
30
20
10
0
2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023
年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度

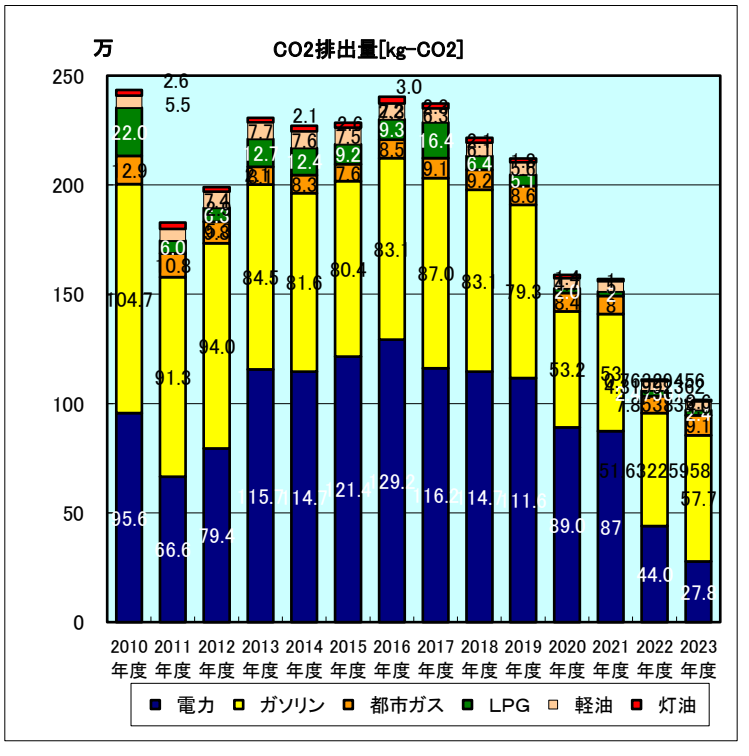

都市ガス使用量[m³]
千
60
40
20
0
2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023
年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度


水使用量[m³]
千
20
15
10
5
0
2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023
年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度


一般廃棄物廃棄量[t]
70
60
50
40
30
20
10
0
2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023
年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度


コピー用紙使用量[kg]
百
140
120
100
80
60
40
20
0
2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023
年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度


先進安全自動車(ASV)販売比率(%)
100%
80%
60%
40%
20%
0%
2010年度
2011年度
2012年度
2013年度
2014年度
2015年度
2016年度
2017年度
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度


CO2排出量[kg-CO2]
万
250
200
150
100
50
0
2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023
年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度
電力
ガソリン
都市ガス
LPG
軽油
灯油

【7】環境経営計画の取組結果と評価、次年度の取組内容

(1) 数値目標を達成するための取組結果

① **電気使用量削減**

・酷暑の影響で、夏場のエアコン温度設定を下げざるを得なかった。
今後もCS・ESの観点からも夏場の温度設定は慎重に行わなければならないと感じた。

結果：未達成

② **燃料使用量削減**

・燃料5項目の、全て目標達成。
・ガソリン・軽油について、安全運転の励行によって燃料使用量の削減に繋がった。
・オンライン会議が浸透してきており、拠点間の移動が減った為、削減に繋がった。

結果：達成

③ **水道水の使用量削減**

・無駄な使用を控える事が浸透しているので使用量削減に繋がっている。
・車両のコーティングを積極的に勧め、雨でも車両の汚れが取れるので、洗車機の使用頻度が減った。

結果：達成

④ **一般廃棄物の削減**

・リコール作業に伴い、廃棄物が増えてしまった。
・目標値を見直すこととした。

結果：未達成

⑥ **紙（コピー用紙）の使用削減**

・お客様への案内(イベント・整備・新車)に関して、紙媒体からスマートフォンやPCを活用した『マイスバル』
に切り替えが進んでいる。また、情報発信の際は、SNS（インスタ、ツイッター）の使用頻度を増やした為、削減に繋
・継続して裏紙の使用が出来ている。

結果：達成

⑦ **先進安全自動車(ASV)販売比率の増加**

2023年9月から全ての取扱い車両が、ASV対象となった。

結果：達成

(2)環境活動の取組結果

環境活動については、11項目中9項目の達成をすることが出来た。
エコ活動が継続的に行われていると感じる。

(3)次年度の取組内容

① 電気使用量削減
・冷暖房の室温管理、照明のこまめな消灯
・省エネ工事の推進（LED照明への切替、断熱強化　等）

② 燃料使用量削減
・エコドライブ5か条の励行、代車の台数を管理する（削減）
・日々の業務を再確認し、無駄な運転を行っていないか見直す。

③ 水道水の使用量削減
・門型洗車機の購入時は節水タイプを購入、スチーム洗車時は効率よく洗車する

④ コーティング施工の推進
・コーティングを施工することで、その後の洗車時にシャンプーの使用を減らすことが出来る。

⑤ 一般廃棄物の削減
・廃棄物の分別を徹底

⑥ 紙（コピー用紙）の使用削減
・コピー削減および裏紙再使用。またiPadを活用し、紙の使用量を削減。情報発信にはSNSの使用を推進する。
・保険部門の「ペーパーレス手続き」の推進を続ける。

⑦ ハイブリッドフィルム（赤外線・紫外線カット）の積極的提案
・赤外線を92%カット、紫外線を99%カットする商品（ハイブリッドフィルム）を車両購入時や点検時に
積極的に提案し、エアコンの効率を上げることで燃費改善に繋げ、Co2排出量削減に繋げる。

（4）二酸化炭素排出量削減に向けた設備投資について

拠点名	LED照明			省エネ工事			太陽光発電	
	導入有無	工事年月	導入範囲	導入有無	工事年月	工事内容	能力	工事年月
本社	○	2014年9月	屋上ｻｲﾝ 1階ｼｮｰﾙｰﾑ	○	2004年12月	大温度差水蓄熱空調システムへ更新 高効率照明器具に更新 BEMS導入		
新前橋店	○	2014年3月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場	○	2014年3月 2022年6月	日射調整ﾌｨﾙﾑ 屋根断熱強化 高効率空調機に更新 工場にシートシャッターを導入	32.4kw	2015年9月
前橋50号店	○	2014年3月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場	○	2014年3月	日射調整ﾌｨﾙﾑ 屋根断熱強化 高効率空調機に更新	21.6kw	2015年7月
前橋かわはら店	○	2013年3月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場	○	2004年7月	氷ビルマルチエアコン採用	48.96kw	2016年3月
太田店	○	2013年11月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場	○	2012年10月	サービス工場 氷蓄熱システム床冷暖房	13.475kw	2013年11月
太田西店	○	2014年10月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場	○	2014年10月	屋根断熱強化 高効率空調機に更新	35.6Kw	2014年10月
太田50号店	○	2013年3月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場					
大泉店	○	2015年1月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場	○	2015年1月	日射調整ﾌｨﾙﾑ 屋根断熱強化 高効率空調機に更新	21.6Kw	2015年3月
館林店	○	2015年1月 2017年3月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場の一部 お客様駐車場 整備工場全て					
桐生店	○	2013年3月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場	○	2021年5月	屋根断熱強化	47.5Kw	2015年3月
高崎倉賀野店	○	2015年1月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場 部品課事務所	○	2015年1月 2023年3月	日射調整ﾌｨﾙﾑ 屋根断熱強化 高効率空調機に更新 工場にシートシャッターを導入	22.5kw	2015年9月
高崎店	○	2022年5月	店舗・工場全体	○	2022年5月	高効率空調機 高効率照明器具 シートシャッター		
伊勢崎日乃出店	○	2013年3月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場	○	2005年12月	氷蓄熱システム空調システム 蓄熱床暖房	35.6Kw	2015年3月
伊勢崎つなとり店	○	2013年3月 2018年12月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場 お客様駐車場 屋外展示場				47.5Kw	2015年3月
渋川店				○ ○	2007年8月 2024年2月	氷蓄熱システム空調システム 蓄熱床暖房 ショールーム断熱フィルム	48.96kw	2015年8月
沼田店	○	2014年3月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所（営業室除）					
富岡店	○	2016年3月	ｼｮｰﾙｰﾑ 事務所 整備工場	○	2016年3月	日射調整ﾌｨﾙﾑ 屋根断熱強化 高効率空調機に更新	43.2kw	2016年2月
ｶｰｽﾎﾟｯﾄ前橋・吉岡		2022年12月	倉庫・トイレ					
ｶｰｽﾎﾟｯﾄ高崎	○	2017年9月	ｼｮｰﾙｰﾑ・事務所 中古車展示場	○	2017年9月	店舗建て替え 高効率空調機に更新		
ｶｰｽﾎﾟｯﾄ太田								
G-PARK伊勢崎	○	2016年3月	店舗内					
サービス部・中古車部								
部品管理課	○	2014年3月	部品庫高天井				46.13kw	2013年2月
車体整備　泉沢	○	2016年3月	事務所 整備工場					
車体整備　高崎	○	2022年7月	工場内				34.32kw	2015年12月

【廃シンナー削減に向けて】

ソルベントリサイクラー(※)を導入し廃棄量が　ゼロ　に

※ソルベントリサイクラーは、スプレーガンなどを高圧洗浄する際に出る廃液から約80%を、再利用可能なシンナーに蘇らせるリサイクル装置。
廃液を高温で気化させ蒸留させる事により、液体（シンナーと水）と固体（インキ、パウダー）に分離。廃液の産廃代を大幅に削減するだけでなく、洗浄剤を再利用可能。

【8】環境関連法規の遵守状況と違反、訴訟等の有無

（1）適用となる主な環境関連法規

主な適用法規	要求事項	遵守評価
水質汚濁防止法	特定施設の届出（自動車自動洗浄装置等）	○
下水道法	排水施設の設置義務　特定施設の届出	○
浄化槽法	11条検査の結果、記録	○
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理 廃棄物処理業者との委託契約 廃棄物の表示、保管管理 マニフェストの集計、報告	○
消防法	少量危険物貯蔵所の届出 消防訓練の実施（年2回以上）	○
化管法（PRTR法）	特定化学物質の排出量移動量の把握と記録、 基準値以上の取扱量の場合に行政に報告	○
フロン排出抑制法	点検・修理、冷媒の充塡・回収等の履歴を記録・保存 簡易定期点検の実施（四半期に一回） 一定規模の場合 簡易定期点検に加え十分な知見を有する者による定期点検	○
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理	○
群馬県化学物質環境安全管理指針	化学物質（エチレングリコール）の適正管理、処理	○
群馬県地球温暖化防止条例	温室効果ガスの排出抑制 新車販売時に自動車環境性能の表示、説明義務 駐車場にアイドリングストップの励行を掲示	○

（2）違反、訴訟等

2024年6月1日に実施した環境関連法規制遵守評価の結果、遵守していることが確認できた。
また、環境関連の苦情、訴訟などはありません。

（3）その他

2024年1月に桐生店で敷地内の土壌にオイルが漏れてしまいました。原因は、オイルタンクから工場内へ圧送する地中の配管が経年劣化によって破損し、その部分からオイルが漏れていました。敷地外への流出はありませんでしたが、同様の事象が再発しないよう、社内で周知

【9】代表者による全体評価と見直しの結果

環境経営目標について11項目中9項目を達成しました。達成できなかった2項目は「電気使用量」と「一般廃棄物」です。「電気使用量」が増えてしまいましたが、エアコンの使用状況が影響していると感じます。群馬県は毎年酷暑が続きますが、そんな中、ご来店頂くお客様に快適に過ごして頂き、そこで働くスタッフ皆さんには、働きやすい環境を保つためにも、今後のエアコン温度設定は慎重に行わなければいけないと感じています。「一般廃棄物」は、当初の目標値が近年の実態と釣り合っていない部分があり(毎年、リコールに伴う梱包材の廃棄量が一定量は発生してしまう。)、新たに設定を行いましたので、目標達成に向け活動していきたいと思います。

2023年度はSDGsの新しい取り組みとして、各店舗のスタッフが自ら考えたエコな活動を年間を通して実行するという「サステナビリティコンテスト」を実施しました。各店舗のスタッフが、目標達成に向けて努力する姿は、SDGsの取り組みが社員皆さんに浸透してきている事を感じさせてくれました。それらの活動は、会社の為・社会の為・自らの成長の為に、とても良い取り組みが出来たのでは無いかと思います。富士スバルは今後も、環境活動を通じて企業の成長、そこで働く社員の成長を目指していきたいと思います。

<<2024年度　重点取組み項目>>

・SDGsの推進
・働き方改革（店舗営業時間の短縮。残業時間の削減）
・生産性向上（WEB会議の活用）
・お客様とのコミュニケーション強化
・定期点検の入庫促進
・e-BOXER(水平対向エンジンと電動技術を組み合わせた次世代パワーユニット）の拡販
・EV車の拡販
・運転支援システム搭載車の拡販
・「点検パック」「あんしん保証ロング」の積極的提案
・ボディコーティングの積極的提案
・ハイブリッドフィルムの拡販

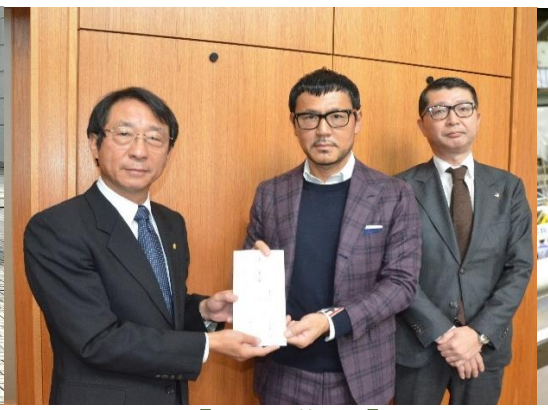
現在計画している店舗改修についても環境面を第一に考え改修工事を進めていきます。今後も環境活動への取組を意識し、店舗・社員にもさらに展開します。

【10】地域貢献としての活動

■ 会社としての地域貢献の取組み
・富士スバルコンプライアンス宣言制定および唱和
・環境美化活動として全拠点にて月１回店舗周辺道路を清掃
・本社は更に週１回近隣歩道橋を清掃（H2建設省、H17国土交通省より表彰）
・自治体への車両寄贈（累計で223台：2024年8月）、県イベントへの長期無償車両貸与（累計100台以上）
・親と子の工場見学教室（累計42回：2024年度現在）
・地域スポーツ振興（毎年小学生バスケットボール大会『スバルカップ』を主催）
　バスケ部設置による県バスケ育成下支え『毎年国体へ選手派遣』）
・サッカー　ザスパクサツ群馬（J2）支援（株主、車両無償貸与累計8台）
・バスケット　群馬クレインサンダーズ(BリーグB1)車両貸与
・AED（自動体外式除細動器）を新車拠点全店に設置
・交通違反、交通事故撲滅運動（SDカード取得2023年度実績95.9%）
・エコアクション21全店で取得（H22.6）。13年経過。
・地元群馬テレビにて「スバリズム」（毎週土曜日約１時間＋再放送）を放送し、顧客参加型の
　番組としている（群馬TV長寿番組）
・環境指向型事業者　新前橋店・高崎倉賀野店（2017年度支局長表彰受賞）

■ 社員としての取組み
・愛の募金（上毛新聞・群馬TV）として毎年2回賞与支給時に全社員が募金
（1975年以降40年以上継続しており、延べ１億4,700万円超）
・献血運動の積極参加
・商工会議所主催、販売士3級・2級資格取得（全社員中約40%取得）
　（H19.5：販売士制度表彰受賞）
・5S（整理・整頓・清潔・清掃・躾）の実践
・SDGs推進リーダー研修開催

【群馬県への車両寄贈】


【愛の募金】

【親と子の工場見学】

【ザスパクサツ群馬支援】

【スバルカップ開催】

【環境美化活動】

富士スバル株式会社

【11】SDGsについて

富士スバルとサステナビリティ

富士スバルは創業以来、「三方良し」という考え方を継承してきました。これは、「売り手良し」「買い手良し」「世間良し」の三つの「良し」。売り手と買い手がともに満足し、また社会貢献もできるのがよい商売であるという考え方です。富士スバルはこれまでの永い歴史の中で、愛の募金や車両寄贈などのCSR活動によって社会・地域貢献を継続してきました。こうした考え方のもと、富士スバルはこれからも事業活動を通じて、今日、社会が直面している地域課題に応えるとともに、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

富士スバルとSDGs

富士スバルは、新車・サービス・保険の販売や提供など、すべてディーラービジネスの根幹をSDGs目標として定めています。先進的な予防安全技術を搭載した車両の普及を進め、交通死亡事故ゼロを目指すことやCO_2排出量削減に向けたサービスメニューの提案などを事業に関する重点的な取り組みとしています。また、企業活動全体で事業が及ぼすリスクと機会について検討し、富士スバルの事業戦略を通じてSDGs達成に大きく貢献できる目標を特定しました。社会課題の解決に貢献する事業・経営戦略が企業として長期的なサステナビリティに影響を与えるものであると考えます。SDGsのそれぞれの目標は相互にかかわっていると理解しており、一つでも多くの目標達成に向けて、直接的、間接的に貢献していきます。

富士スバルの具体的な取り組み

SUBARUグループは2030年にSUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARU車との衝突による歩行者・自転車などの死亡事故ゼロを目指す取り組みをしています。
先進的な予防安全技術を搭載した車を販売して普及を進めることで、SUBARUグループの強みを活かした形でSDGsに貢献していきます。また、交通事故の低減により、修理に必要な部品点数が減り、環境に配慮した商品・サービスの提供、省エネルギー・省資源を推進します。自動車リサイクル事業について、取引先と連携を深め、持続可能な開発を推進していきます。

予防安全の観点から、正しい点検と確かな整備を推進することで、安心で安全に生活できる社会形成を目指します。また、イキイキと働ける環境づくりとチーム技術力の向上を進め、技能を備えた人材の確保を行います。アフターサービスを持続可能なビジネスと捉え、リデュース・リユース・リサイクルを推進し、廃棄物を削減します。また排出するものについては、適正処理を行います。

事故のリスク低減および被害者救済の観点から、テレマティクス自動車保険など、より先進的な保険商品サービスの提供により、事故のない快適なモビリティ社会を実現する。コンプライアンスを厳守した上で、適切な提案と丁寧な説明、そして適正募集を行います。安全運転の割引や安全・安心につながるサービスを提供することで、交通事故の未然防止を目指した取り組みへとつなげます。

「エコアクション21」は環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステムです。当社の「地域社会に豊かさと潤いを創造する」という理念を実現するために、環境保全を重要課題であることを踏まえ、地球温暖化防止対策や資源循環型社会の構築などに率先して取組んでいます。

【12】富士スバルのトピックス

取り組んだ体験を紹介した。（宮村恵介）

愛の募金に217万円寄付

富士スバル

富士スバル（前橋市本町）の斎藤郁雄会長兼CEOは25日、グループ4社の役員や社員を、上毛新聞「愛の募金」に寄付した。寄付は99回目。

斎藤会長と宮田旦社長、松野隆宏専務が、富士スバル本社を訪れた上毛新聞社の関口雅弘社長に目録を手渡した。斎藤会長は〝地域に笑顔の輪を広げていきたい〟との思いを込めた経営理念「Thanks to you」に基づき、「お客さまをはじめとする全ての方々への感謝を忘れず社会貢献活動を継続していく」と話した。

関口社長は「長きにわたる寄付に大変感謝している」と述べた。同グループは1975年12月から寄付を続け、累計額は1億3874万3690円となった。（根本雄作）

目録を手渡す斎藤会長（左から2番目）

【愛の募金の取組み（2024.7.26上毛新聞掲載）】

【CO2排出量ゼロの電気へ】

長野原で産学連携ツアー

富士スバルと県内大学生

いろりで調理し火囲み意見交換

富士スバル（前橋市本町、宮田旦社長）と、県内8大学でつくる群馬インカレサークル「Unstop（アンストップ）」の産学連携ツアーが、長野原町で開かれた。学生らは、きたもっく（同町北軽井沢、福嶋明美社長）が展開する地域資源活用事業に触れ、持続可能な社会やビジネスについて理解を深めた。

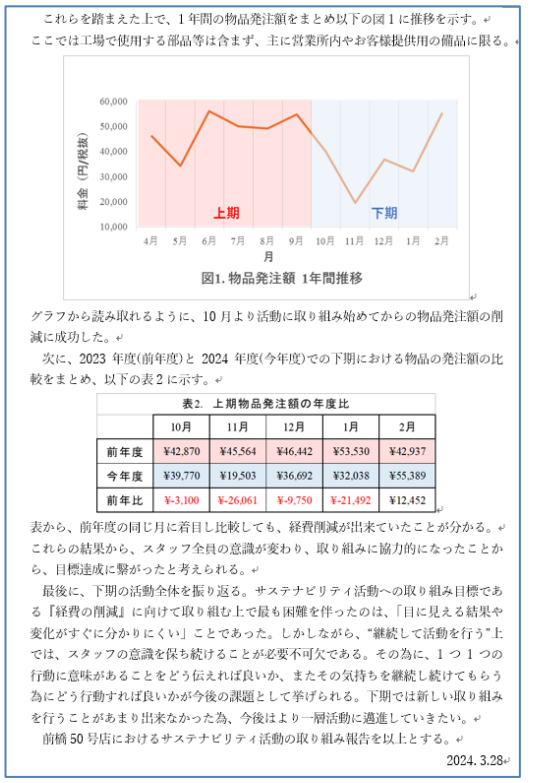
学生の他、富士スバルの各店舗でSDGs推進リーダーを務める若手社員ら計約20人が参加。浅間山北麓でキャンプ場運営や林業などを手がけるきたもっくについて学び、山林や製材所を見学した。同社の宿泊型ミーティング施設「TAKIVIVA（タキビバ）」では、いろりとかまどで夕食を調理し、たき火を囲んで意見交換した。

アンストップの発起人で関東学園大4年の岸諒亮さんは「企業や地域の取り組みに学生が参加することに価値を感じている。ツアーで学生同士の連携も深まった」と話した。

スバルグループの地域貢献活動の一環。富士スバルは「地域で体感！　人と自然のいのちを守るCARAVAN」と銘打ち、きたもっくとの共催でツアーを実施した。大学生との連携事業を継続するほか、ツアーを一般参加形式に発展させることを検討している。（前原久美代）

いろりで調理する参加者

【ひとつのいのちプロジェクト（2023.12.28上毛新聞掲載）】



これらを踏まえた上で、1年間の物品発注額をまとめ以下の図1に推移を示す。
ここでは工場で使用する部品等は含まず、主に営業所内やお客様提供用の備品に限る。

図1. 物品発注額 1年間推移

グラフから読み取れるように、10月より活動に取り組み始めてからの物品発注額の削減に成功した。

次に、2023年度(前年度)と2024年度(今年度)での下期における物品の発注額の比較をまとめ、以下の表2に示す。

表2. 上期物品発注額の年度比

	10月	11月	12月	1月	2月
前年度	¥42,870	¥45,564	¥46,442	¥53,530	¥42,937
今年度	¥39,770	¥19,503	¥36,692	¥32,038	¥55,389
前年比	¥-3,100	¥-26,061	¥-9,750	¥-21,492	¥12,452

表から、前年度の同じ月に着目し比較しても、経費削減が出来ていたことが分かる。
これらの結果から、スタッフ全員の意識が変わり、取り組みに協力的になったことから、目標達成に繋がったと考えられる。

最後に、下期の活動全体を振り返る。サステナビリティ活動への取り組み目標である『経費の削減』に向けて取り組む上で最も困難を伴ったのは、「目に見える結果や変化がすぐに分かりにくい」ことであった。しかしながら、"継続して活動を行う"上では、スタッフの意識を保ち続けることが必要不可欠である。その為に、1つ1つの行動に意味があることをどう伝えれば良いか、またその気持ちを継続し続けてもらう為にどう行動すれば良いかが今後の課題として挙げられる。下期では新しい取り組みを行うことがあまり出来なかった為、今後はより一層活動に邁進していきたい。

前橋50号店におけるサステナビリティ活動の取り組み報告を以上とする。

2024. 3.28

【サステナビリティコンテスト最優秀賞】